

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO.80 平成27年3月号

福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力して
設立した研究機関です

目次

◆URC資料室ニュース

- ①「明日の建築と都市展 1960-2000 回顧と展望」
関連資料展示中・・・・・・・・・・・・・1
- ②本年度第4回目のミニセミナー開催予告・・・・・・・・・・・・・1
- ◆越境地域政策研究フォーラムで研究発表報告・・・・・・・・・・・・・1
- ◆URCニュース
- ①平成26年度 市民研究員研究成果発表会開催報告・・・・・2

②平成27年度 研究紀要『都市政策研究 第17号』

掲載論文を募集中・・・・・・・・・・・・・2

◆FDCニュース

- 「都市再生部会 福岡水辺活性化セミナー」開催報告・・・・・2
- ◆所員雑感「東京マラソン完走報告」・・・・・・・・・・・・・3
- ◆マスコミでみるURCの今・・・・・・・・・・・・・4
- ◆資料速報 平成27年2月受入分・・・・・・・・・・・・・別添

◆URC資料室ニュース

①「明日の建築と都市展 1960-2000 回顧と展望」の関連資料を展示しています！

3月14日土曜日から23日月曜日まで、福岡市役所1階ロビーにおいて「明日と建築と都市展-1960-2000 回顧と展望」が開催されるのに際し、当資料室が資料提供で協力した資料をはじめとした光吉健次先生に関わる図書や雑誌を資料室内にて展示しています。展示資料は通常閲覧・貸出可能ですが、期間中は閲覧のみ可能です。

展示資料の一部をご紹介します。

- ・明日の建築と都市 (1988.10)
- ・福岡市総合計画第2次(1966.8)～第7次(1997.3)
- ・福岡市商業近代化地域計画報告書(1979.3)
- ・URC都市科学 VOL. 1(1989.3), 31(1997.3), 44(2000.6)
- ・雑誌「都市計画 183,186,217」
- ・光吉文庫もくろく(提供できます。) ほか

光吉先生は、九州大学を定年でご退官後、すぐに当研究所の前身である財団法人福岡都市科学研究所に初代理事長として来られ、当研究所の基礎を築かれました。

多くのご観覧をお待ちしています。

なお、3月24日火曜日からは場所を県立美術館に変えて、光吉先生の書かれた建築図面を中心に展示します。こちらは3月29日日曜日までですので、合わせてご観覧ください。



②平成26年度 第4回 都市政策資料室ミニセミナーを開催します！

3月30日月曜日、午後3時から4時半まで、当研究所会議室において、本年度第4回のミニセミナーを開催します。

ダルメンドラ・クマルさんは、インド・デリーのご出身で西南学院大学大学院在席中の昨年秋、当研究所の英語対応の研究スタッフとして着任されました。

この度、当研究所での勤務を終えられるのを機に、このほど修了された修士論文「インドの経済発展と日本企業」から、

インドの経済発展と日本についてお話して戴くことになり、ミニセミナーを開催することにいたしました。講演の後半では、福岡市の印象や異文化への戸惑いやその克服方法などもお話いたします。

皆様のご参加をお待ちしています。



◆「越境地域政策研究フォーラム」で研究発表を行いました。 研究員 柳基憲

平成27年1月31日愛知大学三遠南信地域連携研究センター主催、越境地域政策研究フォーラムにおいて、「福岡・釜山の超広域経済圏形成に向けた外国人高度人材の就職支援プラットフォームの構築」をテーマに研究発表を行いました。同センターが公募した一般共同研究助成に、私が採択されたことで行われ、分科会1「越境地域とガバナンス」において

発表しました。この分科会の趣旨は、国内県境地域及び国境地域の政策事例から、行政境界を跨いだ越境地域におけるガバナンス形成の課題と展望の考察です。





その中で私は、日本が唯一海外と超広域経済圏を目指している福岡と釜山を対象とし、越境間人材交流の可能性について取り上げました。ここでは、平成25年度個別研究

「グローバル人材活躍型都市形成に向けた外国人留学生の就職支援に関する調査研究」で提案した留学生就職支援に向けたプラットフォーム構築に向けた社会実験に取り組むCIPについて紹介しました。CIP(Creative Interchange Platform)は留学生の就職支援を目的に、平成25年に設立した任意団体で、私が代表を務めています。

◆URCニュース

①平成26年度 市民研究員研究成果発表会を開催しました。

3月1日(日曜日)、アクロス福岡 2階 セミナー室2を会場に、「平成26年度市民研究員研究成果発表会」を開催しました。

福岡では大きなスポーツイベントも開催され、スポーツに対する市民や地域の関心が高まっています。スポーツの持つ多様な力を、我々が生活するまちの中で、より具体的・効果的に活用できれば、福岡のまちづくりに大きく役立つとともに、様々な交流の輪が広がるのではないかと考えられます。そこで、『スポーツを生かしたまちづくり』をテーマに、本年度は3名の市民研究員の皆さんが、昨年7月から約8か月にわたって調査研究活動を続け、この日、

その初回催事として、2月28日、アクロス福岡3階こくさいひろばにて、福岡県留学生サポートセンター運営協議会主催事業の中で、「留学生自己PR動画コンテスト」を開催しました。審査員として、福岡の留学生支援団体や地場企業の関係者はもとより、釜山の留学生支援団体関係者も参加していただきました。共同評価を行うことで、就活におけるSNSの今後の展望を、福岡と釜山の両地域で考えることに意義があると言えるでしょう。

発表後に聴衆者から、『福岡と釜山それぞれの産業構成を調べ、両地域が必要としている分野の人材ニーズを明らかにすることが出来れば、研究内容が一層高まると思う』等の貴重な意見を頂戴しました。今回の発表を機に、今後は留学生就職支援のためのプラットフォーム構築を本格的に進めていきます。

*写真出展：本人提供(研究発表の様子)



様々な角度・切り口からの研究成果をまとめ、それぞれ発表しました。

休日午後の開催でしたが、多くのご参加をいただきました。誠にありがとうございました。発表会でいただいた意見などを参考にしつつ、研究成果は報告書としてとりまとめます。3月下旬の福岡市への報告会を経て、報告書が公表されました際には、ぜひご一読ください。

*写真出展：URC撮影(研究員 中村由美)

②『都市政策研究 第17号』への掲載論文を募集しています。

平成27年12月発行予定の『都市政策研究 第17号』では、論文を募集しています。投稿期限は、査読を要する論文は8月末日、査読を要しない論文は9月末日です。投稿資格は原則として、URC および福岡市職員、または賛助会員ですが、大学の研究者等で編集委員会が認める場合にはこの限りではありません。論文の内容は、都市政策に関連する研究成果をまとめたも

のとし、特に福岡市の都市政策に対する何らかの提言的な内容を含むことが望ましく、新奇性または有用性のあるもので、原則として未発表のものに限ります。投稿規定の詳細はURCのHPに掲載しています。なお、投稿をご希望の方は、URCまで事前にご照会ください(E-mail: toshiseisaku@urc.or.jp)。

(研究員 中村由美)

◆FDCニュース

FDC都市再生部会 福岡水辺活性化セミナーを開催しました。

福岡地域戦略推進協議会(FDC)は、2月27日(金曜日)、「福岡水辺活性化セミナー」を開催しました。

このセミナーは、今年度FDCが進めてきた「水辺活性化プロジェクト」の成果を踏まえた上で、国土交通省の「ミズベリング」事業とタイアップし今後どのようにして福岡の水辺を活性化していくかを見出すことを主

な目的として開催したものです。

「ミズベリング」事業は、『日本の



まちに、ワクワクする水辺をつくりだそう』のキャッチフレーズのもと、既存の枠にとらわれずに水辺空間を活用していくことで、まちに新しい賑わいを創出していくとするものです。

そのため、行政の枠を超えた市民が主体となって取り組む枠組みのもとに、河川法や河川占有許可基準などの規制緩和を促し、リバーサイドでのカフェ運営やテラス設置、コンサートやイベント開催など水辺の活性化を進めています。

講演の中で、国土交通省藤井正人河川環境課保全調整

官は「公共とは交響」、市民と行政がまちを良くしていこうという共通の思いのもとに一体となって響きあうこと。水辺をテーマにぜひ行政と市民がひとつになって賑わいを創出していきましょう」と強い期待を表明されました。

FDC では今回のセミナーを受け、国土交通省ミズベリング事業と連携し、市民の参画も模索しながら、福岡の水辺を活性化にむけ、取り組みを加速させていきたいと考えています。

*写真出展：FDC撮影
(FDC事務局 総務ディレクター 中満昭)

◆所員雑感 ~東京マラソン2015 走ってきました！

主任研究員 夏井圭介

2015年2月22日 東京マラソン2015(私にとって初フルマラソンです)に出場しました。

当日は約3万6千人が参加し、人、人、人に揉まれた一日でした。心配された雨も都庁界隈に着いた頃にはほぼ上がり、指定されたゲートでセキュリティチェックを受けてスタート会場に入場しました。

発走まで時間があるにもかかわらず、既にスタート会場内は大混雑。8:00から発走ブロックへの入場が始まり、ほぼ同時に並びましたが、底冷えのする中9:05のスタートまでの時間がとても長く感じられました。指定された発走ブロックはHで、アルファベットA~KのHですから、かなり後方からのスタートです。(ブロックは自己申告した予想タイムで割当てられます)

9:05 スタートの号砲が鳴りましたが、しばらくは前に進まず、スタートゲートを通じたのは号砲から14分後でした。

ゲート付近で号砲と同時に舞い上がったはずの紙吹雪が、一向に見当たらないので、がっかりしたのと同時に不思議に思っていたのですが、後から紙吹雪が水溶性素材だったと聞き納得しました。

スタートゲートを通じた途端、周りはランニングモードに切り替わり、42.195kmの旅が始まりました。

最初の5kmはなだらかな下りが続くため、多くのランナーが高揚感も相まって、自然に飛ばしてしまうそうです。事前の経験者のアドバイスで意識的にペースを抑えて入り、周りから続々と追い抜かれましたが、ここは「我慢、我慢」と言い聞かせながら走りました。

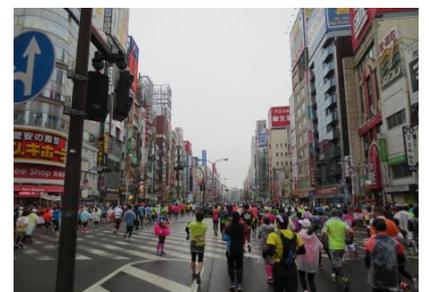
「新宿(歌舞伎町)」～「皇居」～「芝公園(東京タワー)」～「品川駅(折り返し)」～「銀座」～「浅草(雷門・東京スカイツリー)」～「東銀座(歌舞伎座)」等、東京マラソンのルートは名所を随所に盛込んでいて、普段は立ち入ることのできない車道から見る景観はとても新鮮です。

沿道からは絶え間ない声援があり、私設エイドでは糖分補給に役立つお菓子類を始め、エアースロンパスの提供まで!! 面白かったのは、カツサンドを提供していた方がいたことです。(終盤でしたので、さすがに食指が動きませんでした…)

「君たちは10分の1の選ばれた人だ！喜びを噛み締めて頑張れ！」「走りたかったなあ。俺の分まで頑張って！」「残り〇キロ。歩いたりしたらもったいないよ～」など、長い道中、心に沁みる声援が何度も励みになって、大きなペースダウンもなく、感激のうちにゴールすることが出来ました。

振り返ると、昨年、高校卒業30周年を機に同級生と走り始め、自身初マラソンとなった東京マラソンでしたが、福岡マラソンに落選後、モチベーション維持を目的にダメ元でエントリーしたため、いろんな意味で走れるとは思ってなかったのです。

ランナーとして参加でき、応援が持つ大きな力やボランティアの方々の献身にたくさんの感動をもらい、とても感謝しています。今は、いつかそのお返しができるらと思っています。



マスコミで見る「URC」の今！—最近1か月の情報を中心に—

◎新聞

(2015/2/25 朝日新聞 朝刊 33p)

天神ビックバン構想 特区で建物の高さ制限緩和 福岡市が再開発加速へ
当研究所の建設投資効果見込みが引用される。

(2015/2/25 西日本新聞 朝刊 28p)

留学生らが留学生の就活支援後輩たちに同じ苦勞かけたくない フェイスブックで自己PR動画 28日にはコンテストも
柳基憲研究員と研究協力員のダルメンドラ・クマルさんが共同代表を務める団体の活動が紹介される。

(2015/2/24 毎日新聞 夕刊 9p)

憂楽帳 乗り合い
小川全夫特別研究員が現在の地域の交通システムについて指摘

(2015/2/22 西日本新聞 朝刊 3p)

読み解く＝人口減対策 もがく地方 長年の課題「実効性は…」15年度中に自治体版「総合戦略」
広域、官民 連携が必要/元当研究所主幹研究員で現在企画委員の谷口博文さんが談話 FDCの活動が紹介される。

(2015/2/20 西日本新聞 朝刊 23p)

西区 児童が姪浜の街並みを見学
当研究所 OB 大塚政徳さんが事務局長を務める唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動が紹介される。(☆印＝以下同じ)

(2015/2/17 西日本新聞 朝刊 22p)

英語話せる人集まれ 人材活用へ方策試行 人脈構築、新ビジネス探る FDC、10月までに10回催し
FDCの試験的な取り組みが紹介される。

(2015/2/16 河北新報 朝刊)

フィギュアスケート/トリノ五輪で金の荒川静香さんが講演「乗り越える力」/秋田
市民研究員 OB 藤浩志さんが秋田公立美術大学教授として荒川静香さんと対談形式で講演(*印＝以下同じ)

(2015/2/15 朝日新聞 朝刊 29p)

あの頃 キラキラ輝いていた 天神 若者のまちから 1
当研究所 OG 佐々木喜美代さんがコメント

(2015/2/11 東京読売新聞 朝刊 23p)

「田中忠三郎が伝える精神展」藤浩志(寄稿)
市民研究員 OB 藤浩志さんが秋田公立美術大学教授として寄稿

(2015/2/6 日刊工業新聞 28p)

ふくおか IST、産学官・市民参加で IC カード見守り技術を実証—上海交通大も連携
安浦寛人理事長が「見守り技術普及促進協議会」会長に就任

(2015/2/5 秋田魁新聞 朝刊 23p)

秋田美大客員教授・荒川静香さん 徹底的に挑戦し困難乗り越えて 秋田市文化会館で特別講義 *

(2015/2/2 山陰中央新報 出雲版 25p)

山陰5委員も意見発表/中国圏広域計画見直しへ/広島/学識者会議が初会合
当研究所 OB 新井直樹さんが会議に参加(@印＝以下同じ)

(2015/1/31 日本経済新聞 朝刊 38p)

謎解きアカデミー 九州・沖縄 福岡コンパクトシティー どう誕生 地形・行政の制約 出発点 海・山に囲まれ狭く無秩序な開発抑制 空港の騒音など負担も
当研究所の分析が紹介される。

(2015/1/30 建設通信新聞 16p)

広域地方計画学識者会議が初会合/14年度内に骨子作成 @

◎雑誌

(2015/3 会誌建築士 11,22~23p)

☆ まちづくり賞の受賞に際し、当研究所 OB 大塚政徳さんが事務局長として道姪浜まちづくり協議会の活動を紹介

(2015/2/27 福岡市情報プラザ通信 2015.3 2p)

展示会「明日の建築と都市展～1960-2000 回顧と展望～」が紹介される。

(2015/2/2 日経グローバル No.216 使える議会図書室とは 主要自治体調査 公立・専門図書館との連携力 ギ 17p)②福岡市 多くの専門図書館との交流に情報資料連絡会のメンバーとして当資料室が紹介される。

(2015/2/1 ACROS 2015 March 13p)

セミナー室 2 3/1(日)市民研究員研究成果発表会の開催予告

(2015/2 だんまち 20p) 街と店 ☆

(2015/2 201502 vol.96 No.1115: 場をつくる～プログラムの挑戦～リノベーションのリアル 20p)

「ビンテージビル創育」プロジェクト～文化発信の礎をつくり、まちを耕す～を市民研究員 OB 吉原勝己さんが共著

(2015/1/31 フォーラム福岡 vol.59 特別号)

10~19p 「フォーラム福岡編集委員座談会:福岡の“いま”を踏まえ、“近未来”を語る」に後藤太一 FDC 事務局長が参加 福岡の未来を語る

144~153p 「Special Report 福岡の国際競争力の「現在」と「未来」を久保隆行上席主任研究員・情報戦略室長が執筆

◎テレビ

(2015/2/23 NHK 各地(山形県)のニュース)

山大生が生活の身近な研究発表
当研究所 OB 山本匡毅さんの山形大学のゼミ生の研究が紹介される。

(2015/1/31 14:30~15:00 TVQ 九州放送「ぐっ! ジョブ」)

『リノベーションでまち再生』に市民研究員 OB 吉原勝己さんが出演